

Asian Diversity No.15 by ASNET

「学際的貧困研究」

ASNETでは、日本学術振興会「アジア・アフリカ学術基盤形成事業」に採択された「ケイパビリティ・アプローチによる貧困の学際的研究」を今年度から実施しています。この研究は、大陸部東南アジアの4カ国(ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ)を対象として、その貧困問題を学際的に追究しようとするものです。言うまでもなく、貧困とは所得だけで測れるような単純なものではなく、複雑な要因が絡み合っていて、それを捉えるためには学際的なアプローチが必要です。アマルティア・センが提唱するケイパビリティという概念は、人々の暮らしの良さ(Well-being)を捉えるための多面的な概念であり、本研究ではこの概念を応用します。

ASNETが本研究を行なうことの最大のメリットは、ASNETが持つ東大内の学際的な人的ネットワークを活用するということです。ASNETはこれまで横断型教育プログラム「日本・アジア学」などを通して教育活動の面で人的ネットワークを作り上げてきました。本研究はその人的ネットワークをさらに研究活動に活用しようとするものです。そして、個々の研究者が対象4カ国で持っている人的ネットワークにつなげることによって、さらに人的ネットワークを広げていこうというのが我々の狙いです。

本研究で行なったこれまでの活動としては、2011年9月にベトナム国家大学ホーチミン校のベトナム・東南アジア研究所とカンボジアの王立農業大学の協力を得て、ホーチミン市でセミナーを開催した後、メコンデルタからアンコールワットまで車で移動しながら貧困について議論しあいました。10月には日本でセミナーを開催しました。意外に思われたのは、4カ国の研究者が隣国のことについてよく知っているわけではないこと、日本人研究者も自分の研究対象国以外のことはよく知らないということでした。このことは、研究の視野を広げるためにも本研究のような多国間の学際的研究は重要であることを意味しています。

今年度は、2012年1月にはタイのコンケン大学およびラオスの国立大学等の協力により東北タイとラオスのルアンプラバンで共同調査を行なう予定です。

文：池本幸生(東洋文化研究所/ASNET 教授)



2011年9月 ベトナムでのセミナー

「日本・アジアに関する教育研究ネットワーク」(略称 ASNET)は、日本を含むアジアを対象とする研究者が部局の枠を超えて集まり、新しい教育や研究の可能性を探るために設立された東京大学の機構です。

<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>

Relay Column

ワタシのオシゴト 第71回

Rings around the UT

大学院薬学系研究科・薬学部 会計チーム(執行)

萩原 稔さん

夏のおもひで



職場でのボクです

薬学部に異動し、3度目の冬を迎えました。現在、薬学部会計チーム(執行)に所属し、契約、施設、環境安全、これらの業務を担当しております。さて、施設関係と言うと身近なところでは“エアコンが故障した時に連絡したことがある”“蛍光灯が切れて・・・”などを思い出されるかと思いますが、これが意外と奥が深いのです。例えば、2011年は節電の夏でしたので、我が薬学部では巷で流行の緑のカーテンに挑戦しました。緑のカーテンに採用したゴーヤの苗はグングン伸びて、節電効果は抜群、収穫されたちょっと小ぶりのゴーヤは絶品で、研究室にも配るほどの大豊作でした。同じ頃に植えたヒマワリも元気に咲いて、“常に前を向いて咲いている。そんなヒマワリの姿に元気をもらえた”などの嬉しい言葉もいただけたような・・・? このように薬学部の快適な教育研究環境の維持管理はもとより、色々な面でのバックアップが出来ればと「チーム薬学」一丸となって頑張っております。



「チーム薬学」の日常

得意ワザ：ホルモン焼き(絶妙な焼き加減)
自分の性格：未年の草食系ダメー。
次回執筆者のご指名：古瀬武彦さん
次回執筆者との関係：農学部ミドレンジャーズ仲間
次回執筆者の紹介：
やさしくて親切な、イケメンお笑い芸人